

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24年 6月 16日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4690100583号
法人名	医療法人甲和会
事業所名	グループホームなごみ
所在地	鹿児島市甲突町24番16号 (電話) 099-224-3106
自己評価作成日	平成24年4月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

こどもの頃を思い出して、楽しんでもらえるよう毎月の行事を企画し実行しています。高齢者福祉バスを利用させていただき2ヶ月に1回の割合で様々な7行事を取り入れて活動しております。入居者の一人一人を家族と考え、生活を共にしていることを意識し、ゆっくりとコミュニケーションをとり、充実した日々を過ごせるよう支援しています。看護面も福島内科医院を中心に他施設医療施設との連携も大切にし、スタッフも認知症介護の向上に取り組んで努力しています。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年5月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に根ざした医療法人の他施設に併設され、個人の尊重・家族との絆・地域の中での自立した生活を理念とし、地域密着型サービスとしての意義を踏まえた運営が長年行われているグループホームである。

理念のひとつである家族との絆においては、日常の面会はもちろんのこと、外出行事(動物園・ソーメン流し・フラワーパークなど)やホーム内行事に家族の参加が多く、孫やひ孫とも関わりの機会が持てるよう行き先を選定してともに楽しめるように工夫している。「家族参加の催し物が多く、職員との交流も深まりやすい」との家族の評価もあり、離れていても家族の絆が途切れないよう年間の行事計画を作成して定期的に交流の機会を設けて支援している。

また地域交流においても、開設して2年目ではあるが、運営推進会議が活かされており、町内会の理解と協力が得られている。六月燈見学や小学校の運動会参加、児童センター・保育園の子ども達との交流会などの他にも、4月に行われたホームの花見祭りでは町内会の方々も設営や余興に参加し、利用者、家族、地域が一体化した催し物となっている。また、避難訓練にも運営推進委員の方々に参加してもらうなど、地域の協力者を確保できるように積極的に取り組んでいる。

開設して2年、管理者、職員はサービス向上、業務改善に向けた話し合いを重ねてグループホームなごみを築いてきた。鹿児島市内中心部にあるグループホームとしては運営推進会議が実に良く活かされていることから地域の理解と協力が得られており、家族との絆においてもともに参加できるように福祉バスを利用するなどの工夫が活かされている。今後の取り組みにも多いに期待できるグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念や目標は各ユニットに掲示しており、理念に基づいて実践しています。	理念はホールや廊下に掲示し、パンフレット、案内書にも明記している。職員は毎朝唱和し、毎月の職員会議でも理念を確認するなど理念の共有と実践に繋げている。また、理念とは別に各委員会ごとに目標も作成している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事、運動会、お祭り、消防訓練など利用者様と共に参加している。その他スーパーなどでの顔合わせにて笑顔で挨拶できている。	六月燈見学や、小学校の運動会には種目に参加するなどしている。また、児童センター・保育園との交流会はホームの年間行事計画にも組み込まれている。ホームの催し物にも毎回地域の方々の参加があり、桜まつりでは設営や余興での協力も得られるなど地域と一体化した催し物となっている。家族アンケートにも町内会の協力があるとのコメントがあり、地域との交流が実に良く出来ている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	近所の公園でのお花見には地域の方も一緒に参加してもらい楽しんでいます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営委員会を開催しています。情報交換が出来るよう配慮している。	運営推進会議は2ヶ月に1回、町内会長・老人会会長・民生委員・児童センター園長・家族・行政などの参加で定期的に開催している。家族は固定せず、毎回多数の参加を呼び掛けている。運営推進会議を通じて地域の理解と協力が得られるようになり、利用者のサービスの質の向上、ホームの運営、安全対策にも多いに活かされている。	

鹿児島県 グループホームなごみ 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査時など情報の提供をしている。相談員派遣事業の受け入れで訪問指導を頂いている。	日頃より連携を図り、協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の状態を常に観察し徘徊のある方には見守りを重視している。2Fの出入り口の直ぐそばに階段があり危険性を感じるためご家族に十分な説明をし理解していただいている。	契約書に「原則として身体拘束は行いません」と明記している。ホーム内に身体拘束廃止委員会を設置して拘束のないケアに取り組んでいる。ホーム内、死角や階段など危険箇所はあるが、日中は居室や玄関の施錠はせず、職員間の連携で安全で自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修等でスタッフ間のこえか声掛けケアの方法について話し合いをし、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者いない、研修に参加し学んだ内容は内部研修でもう一度復習しています。		

鹿児島県 グループホームなごみ 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約は書面にての説明ともう一度読んでいただき納得のうえで同意書の記載をお願いしています。退去時も説明を行い面会にも行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会ノートを各居室に置き要望等書いてもらいミーティングで話し合ったりしています。	日常の面会時、電話連絡時などに意見、要望を引き出すようにしている。また、家族参加の行事（桜まつり・運動会・敬老会・遠足等）も多く、毎回、多数の家族が参加してスタッフとの交流、意見・要望などを聞く機会となっている。出された意見や要望については職員全員で話し合って運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間で意見、提案を出し連絡ノートを活用し情報共有を行っている。	毎月、各種委員会会議（身体拘束・感染予防・リスク予防・環境衛生・給食）及び全体会議で意見交換や話し合いを行っている。開設してからこれまでにさまざまな内容の話し合いが重ねられており、出された意見・提案については可能な限り改善及び実現に向けて反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は整備されている。働きやすい職場環境作りをしているが改善が必要であれば検討します。		

鹿児島県 グループホームなごみ 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修にも自主的に参加し研修後は報告書を提出しミーティング等での報告を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GH協会の提供する相互堅守に参加している。管理者やケアマネ間でのネットワーク作り各事業所を訪問し相談し合っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に訪問調査を行い情報収集しご本人の要望に対応できるように努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族ご本人様の不安や困っていることを伺い、コミュニケーションを大切に意見や要望を話しやすい雰囲気作りに心掛けている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご家族ご本人様の意向をしっかりと把握し安心してサービスを受けることが出来るよう努めています。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>共に暮らすと言う意識をもち教えあったり、励ましあったりしながら生活を共にし信頼関係を築いている。</p>		

鹿児島県 グループホームなごみ 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と意見交換、情報共有し同じ思いで支えていけるよう取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の面会などゆっくり話せる環境を整え、継続した交流が持てるよう一緒に知人への手紙を書いたりもします。	日常の会話などで本人の希望を聞き取り、家族の協力をもらいながら、入居前からの行きつけの美容室、入院先への面会、墓参りなどなじみの人や場との関係継続の支援を行っている。また、友人・知人が訪ねやすいような雰囲気作りにも配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格、人間性レベルなどにより手伝い事の提供などを工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も病院への面会施設への面会をご家族に許可を頂いて行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動や行動、表情を観察し、その中で思いや希望を把握するように努めている。家族様からも情報を聞くようにしている。	家族、関係者からの情報、日常の会話や言動、表情などから思いや意向を把握するように努めている。発話での意思疎通が難しい利用者には、意思疎通の方法を工夫して思いや意向を把握できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活暦等の把握に努め、これまでのサービス状況等はご家族を含め関係者からも情報収集するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人が個々のペースで本人本位で生活出来るよう支援している。状況の把握に努めるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや申し送りなどでの意見を検討し現状に合ったケアの提供が出来るように努めています。	入居時に本人、家族の希望を聞いて、職員、主治医の意見を取り入れながら本人が楽しみ、はりのある生活が送れるよう個々に応じた介護計画を作成している。日常の生活で変化が見られたら、その都度見直しを行いながら現状に即した介護計画を作成している。また、変化がなくても2ヵ月ごとにモニタリングを行って定期的に見直しを行っている。	

鹿児島県 グループホームなごみ 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況をケース記録に記載。具体的内容を記入し申し送りを行い。伝達漏れがないよう工夫している。連絡ノートも使用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設で出来ることだけにとらわれず、ご家族様の協力や医療面では往診等を取り入れている。等柔軟に対応するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの来訪や保育園、児童センター、小学校の児童との交流を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は主治医に情報提供し連携を図っている。	隣接する法人の医療機関や協力医療機関と連携が図られている。ホームに看護師も常勤しており、医療連携体制による利用者の健康管理が密に行われている。	

鹿児島県 グループホームなごみ 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に情報交換を行い状態変化の場合は相談し、受診の必要性の判断や助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃より掛りつけ医に身体状況の報告を行い入院時は介護連絡表報告を行い訪問するようにしている。退院後の定期的な受診時状況を報告し再発に気をつけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化等の場合を想定し家族様掛り付け医と十分に情報を共有し話し合い本人にとって何が優先されるべきかを検討していくようにしている。	重度化や終末期に向けたホームの指針を作成し、入居時にホームの方針を説明している。入居後は利用者の身体状況に応じて、主治医の指示のもとに家族と話し合い、方向性を決めている。職員もホームの方針を共有して最大限の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時と対応のマニュアルを作成し、いつでも観覧できるようにしている。救急法の研修を行い実践を高めている。		

鹿児島県 グループホームなごみ 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の防災訓練を行っているが、消火器、消火栓の使い方の訓練を行っている。</p>	<p>年2回防災訓練を行っている。運営推進委員の方々の参加もあり、災害時の話し合いが行われている。自動通報システム、スプリンクラーは設置済みである。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人様の気持ちを尊重しさりげないこえ掛け言葉掛けを行っている。	認知症ケアのひとつとして勉強会を行って職員の資質の向上に向けて取り組んでいる。特に排せつ介助は人格を尊重した声かけや対応に配慮するように職員に周知徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で希望や思いを探ったり一人一人が自分で決定出来るような場面を提供できるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの時間を大切にし穏やかな生活の現実のため取り組んでいる。本人の気持ちを尊重し出来る限り個別性のある支援に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節に合わせた服装が出来るように支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れたり誕生にはケーキ等提供し準備や片付けが出来る方には手伝っていただいている。	個々の力量に応じて下膳、食器洗い、家庭菜園作り、収穫、食材の下ごしらえなど手伝ってもらっている。ときにはホットプレートでクレープ作りやお好み焼きを職員とともにすることもある。また、外出のレクリエーションでは家族も共に外食や外での弁当を楽しんでいる。	

鹿児島県 グループホームなごみ 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせ食事量、形態等を把握し食器や食べ方を工夫し提供している。個々の嗜好を理解し提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア時個々の能力を把握し必要に応じて援助し自立の方も含め口腔内の状況観察に努める。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し個々の状況に応じたおむつ交換やトイレ誘導が出来るよう心掛けている。	可能な限り、トイレでの排せつを支援しており、身体状況によりおむつ使用の利用者もタイミングをみて、日中はトイレ誘導をしている。自立している利用者もあり、継続できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食事の提供、腹部マッサージを行うなど自然排泄を心掛けているが、便秘の強い方は医療機関との連携にて調整を行っている。		

鹿児島県 グループホームなごみ 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	バイタルチェック後体調を見ながら週に2～3回ゆっくりと一人一人にあった入浴支援を行っている。	個々の身体状況に応じて入浴支援を行っている。入浴ができない利用者には清拭で対応して清潔の保持に努め、気候や本人の体調をみて入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人の生活状況を把握し体調や希望に応じ自由に休息していただいている。日中適度な活動を促し生活リズムを作ることで安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は職員が把握しいつでも確認できるようにしている。服薬時には誤薬がないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活暦や得意なことを把握しその方らしく過ごせ役割が持てる場を作り出せるよう外出、行事等に参加することで気分転換となるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はスタッフと一緒に買い物に出かけたり公園を散歩したりします。	日常的にホーム前の公園を散歩したり、買い物などに出かけている。福祉バスを利用しての外出行事も多く、家族もともに楽しめるように年間計画を作成して普段行けないような場所でも楽しめるように支援している。「家族参加の外出イベントや催し物が多い」との家族の評価もある。	

鹿児島県 グループホームなごみ 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族の申し出により預かり金を保管しいつでも買い物など出来る状況をとっている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望に応じて電話を利用している。手紙、年賀状の支援も行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂、玄関等に季節感のある花を利用者に生けて頂いている。また廊下には行事に参加された時の写真を貼っている。</p>	<p>ハード面をカバー出来るように季節の花を飾ったり、写真を掲示するなど工夫している。共用空間のダイニング兼リビングには大きなテーブルとソファなどが置かれ、利用者はそれぞれお気に入りの場所でくつろげるように配慮されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂では気の合ったもの同士が思い思いに過ごせるよう席の配置を工夫、テレビも全員が見やすい位置に置き集まりやすい空間となっている。</p>		

鹿児島県 グループホームなごみ 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者になじみのものを持ってきて頂き、出来る限り自宅に近い雰囲気となるようにご家族様に協力していただいている。	寝具、テレビ、テーブルとイス、家族の写真、観葉植物などそれぞれに居心地良く過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂や、居室に不要なものを置かないようにし危険防止に努めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームなごみ 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームなごみ 1ユニット

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない